



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ブランシエラ環状通東 新築工事	階数	14階
建設地	札幌市東区北15条東12丁目17	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	143 人
建物用途	集合住宅	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
竣工年	2023年3月 予定	評価の段階	実施設計段階評価
敷地面積	1,233 m <sup>2</sup>	評価の実施日	2021年10月26日
建築面積	358 m <sup>2</sup>	作成者	花里
延床面積	4,395 m <sup>2</sup>	確認日	2021年10月29日
		確認者	石川



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5 ★★★★★ A</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>2-4 一次エネルギー消費量の評価 建物全体の[BEI][BEIm]= 0.87</p>

2-5 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.2</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.4</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.9</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.5</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.5</p>

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」を新基準 (H28基準) で取得し、外皮性能の向上・省エネ効果の高い設備機器の選定などにより一次エネルギーの抑制をし省エネルギー対策を行っている。</li> </ul>	<p><b>A 省エネルギー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級4を満たす程、省エネルギー対策を充実させている。</li> <li>効率の優れた潜熱回収型給湯設備の使用など、省エネルギー効果が期待できる設備を採用している。</li> </ul>
<p><b>B 省資源等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別を比較的容易にしている。</li> <li>ODP=0、GWP=1の断熱材を使用している。</li> <li>地球温暖化対策の取組みによりLCCO<sub>2</sub>排出率が71%となっている。</li> </ul>	<p><b>C 緑化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>耐陰性、耐寒性のある常緑針葉樹を用い、冬の緑量確保に配慮している。</li> <li>また、道路沿いに植栽を多く配置して沿道に緑の潤いを演出した。</li> </ul>
<p><b>D 雪処理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内通路及び歩道をロードヒーティングとし、冬季間の除排雪作業の軽減に努めています。</li> </ul>	

4 ほかの認証・評価制度の利用			
(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	なし	BELS認証	なし
上記以外の認証・評価制度の利用		LEED認証	なし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016(ver.1.4)  
 (仮称)フランシエラ環状通車新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0  
 ■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)

スコアシート		実施設計段階		建物全体-共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境				0.40	-			3.2
1 音環境			2.0	0.15	2.0	1.00		2.0
1.1 室内騒音レベル			1.0	0.50	1.0	0.50		
1.2 遮音			3.0	0.50	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20		
1.3 吸音				-				
2 温熱環境			2.2	0.35	3.3	1.00		3.1
2.1 室温制御			2.2	0.50	3.3	1.00		
1 室温			3.0	0.63	3.0	0.63		
2 外皮性能	省エネ	日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級4を満たしている。	1.0	0.38	4.0	0.38		
3 ゾーン別制御性				-				
2.2 湿度制御			1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式			3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境			2.7	0.25	3.5	1.00		3.3
3.1 昼光利用			4.2	0.30	4.0	0.50		
1 昼光率		開口部を多く配置し、昼光を確保している。	5.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口				-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策			2.0	0.30	3.0	0.50		
1 昼光制御	省エネ		2.0	1.00	3.0	1.00		
2 映り込み対策				-				
3.3 照度			1.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御			3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境			3.6	0.25	3.8	1.00		3.8
4.1 発生源対策			4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		ほぼ全面的にF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気			3.0	0.40	3.6	0.38		
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		開口部を大きくして、開閉可能な窓を十分確保している。		-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4.3 運用管理				-				
1 CO <sub>2</sub> の監視				-				
2 喫煙の制御				-				

Q2 サービス性能			3.0	0.30	-	-	3.4
<b>1 機能性</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.8</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>			<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60	
1	広さ・収納性			-		-	
2	高度情報通信設備対応	各住戸に1Gbitの光ファイバー回線を整備している。		-	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>2.5</b>	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	天井高さ2600mm		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画		3.0	1.00	1.0	0.50	
<b>1.3 維持管理</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>3.0</b>	0.30		-	<b>3.0</b>
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>			<b>3.0</b>	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>			<b>3.3</b>	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数	日本住宅性能表示基準の劣化対策等級3を満たしている。	5.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	期待耐用年数が長い内装材を選定している。	4.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	期待耐用年数が長い管材を選定している。	4.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
<b>2.4 信頼性</b>			<b>2.6</b>	0.20		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		1.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.0</b>	0.30	<b>3.4</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					-	<b>3.8</b>	0.50	
1	階高のゆとり		階高3020mm以上。		-	<b>5.0</b>	0.60	
2	空間の形状・自由さ				-	<b>2.0</b>	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					-	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>				<b>3.0</b>	1.00		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		<b>緑化</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		<b>緑化</b>	周囲と調和するような外観デザインとしている。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	<b>雪処理</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	<b>省資源 緑化</b>		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		<b>省エネ</b>	日本住宅性能表示基準の断熱等性能等級4を満たしている。	<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>		<b>省エネ</b>		<b>2.0</b>	0.10	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		<b>省エネ</b>	[BEI][BEIm] = 0.87	<b>4.6</b>	0.50	-	-	<b>4.6</b>
<b>4 効率的運用</b>				<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
集合住宅以外の評価					-	-	-	
4.1	モニタリング	<b>省エネ</b>			-	-	-	
4.2	運用管理体制	<b>省エネ</b>			-	-	-	
集合住宅の評価				<b>3.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	<b>省エネ</b>		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	<b>省エネ</b>	設備や仕様に関し、適切な説明がなされている。	4.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>				<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				<b>2.6</b>	0.60	-	-	<b>2.6</b>
2.1 材料使用量の削減		<b>省資源</b>		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		<b>省資源</b>		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		<b>省資源</b>	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		<b>省資源</b>	-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		<b>省資源</b>		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		<b>省資源</b>	乾式間仕切、断熱材のウレタン吹付等、分別が比較的容易である。	4.0	0.20	-	-	

<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			4.0	0.20	-	-	4.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない接着剤を選定している。	4.0	0.30	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	
1	消火剤	省資源		-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	省資源	ODP=0、GWP(100年値)=1 の断熱材を使用している。	5.0	0.50	-	
3	冷媒	省資源		3.0	0.50	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	省資源	LCCO2排出率71%である。	4.1	0.33	-	4.1
2	地域環境への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2.1	大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	省資源 熱化 蓄処理		3.0	0.50	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	
1	雨水排水負荷低減	省資源		2.0	0.25	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	
3	交通負荷抑制		十分な駐車スペースを確保している。	4.0	0.25	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	省資源 蓄処理	棟内ゴミステーションによる十分なスペースの確保。	4.0	0.25	-	
3	周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	3.3
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	
2	振動			-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	
2	砂塵の抑制				-	-	
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	
3.3	光害の抑制			4.7	0.20	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		「光害対策ガイドライン」のチェックリスト項目の過半を満たしている。	5.0	0.70	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		バルコニーの設置によりグレアの抑制を行っている。	4.0	0.30	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

<b>1 建物概要</b>		BEE	1.5	BEEランク	A
建物名称	(仮称)ブランシエラ環状通東 新築工事				
建物用途	集合住宅				
延床面積	4,395.3 m <sup>2</sup>				

<b>2 重点項目への取り組み</b>		<b>レーダーチャート</b>	
地球温暖化対策	<b>最重点項目</b> <b>省エネルギー</b>	★★★★★	
	<b>省資源等</b>	★★★★☆	
	<b>緑化</b>	★★★★☆	
	<b>雪処理</b>	★★★★☆	
		<p>省エネルギー性能 5.0 4.0 3.0 2.0 1.0 0.0</p> <p>雪処理 省資源等への取組 緑化への取組</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>	

<b>3. 重点項目のCASBEEスコア</b>					
<b>A 省エネルギー</b> ( 最高点 23.5 最低点 7.4 )		<b>合計</b> <b>17.3点</b> /23.5点			
Q1 温熱環境	スコア	0.3 /1.4	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.2 /4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0 /2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	0.8 /2.0
			LR1 設備システムの高効率化	スコア	9.2 /10.0
			LR1 効率的運用	スコア	2.8 /4.0
<b>B 省資源等</b> ( 最高点 23.7 最低点 7.7 )		<b>合計</b> <b>14.6点</b> /23.7点			
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.6 /1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.7 /9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.7 /1.9
			LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.1 /5.0
			LR3 地域環境への配慮	スコア	2.6 /4.4
<b>C 緑化</b> ( 最高点 15.3 最低点 3.1 )		<b>合計</b> <b>9.0点</b> /15.3点			
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	1.8 /4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.5 /2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8 /6.0			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9 /2.3			
<b>D 雪処理</b> ( 最高点 3.0 最低点 0 )		<b>合計</b> <b>2.0点</b> /3.0点			
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.0 /1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0 /2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■重点項目の**最高点**は、各評価項目で**レベル5**で評価された場合の点数  
 ■重点項目の**最低点**は、各評価項目で**レベル1**で評価された場合の点数